

かた

の型

かたどろくろつたらしらるるまなたち



2017 6.2 金 → 9.10 日

【会場】 土岐市美濃陶磁歴史館 第2展示室
【開館時間】 午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
【入館料】 一般200円(150円) [大学生]100円(70円) [高校生以下]無料 * ()内は20名以上の団体料金
障がい者手帳をお持ちの方 [一般]100円 [大学生]50円
【休館日】 月曜日、祝日の翌日(ただし7/17、8/12は開館)

【出品協力】 岐阜県立多治見工業高等学校

企画：公益財団法人 土岐市文化振興事業団

写真／元屋敷陶器窯跡出土品、清安寺窯跡出土品、土型は上2点のみ岐阜県立多治見工業高等学校所蔵

土岐市美濃陶磁歴史館

TOKI CITY HISTORICAL MUSEUM OF MINO CERAMICS

〒509-5142 岐阜県土岐市泉町久尻1263番地
TEL.0572-55-1245 FAX.0572-55-1246

土岐市文化振興事業団ホームページ <http://www.toki-bunka.or.jp/>

茶陶生産に用いた型はどんな型？

安土桃山時代から江戸時代初頭にかけて茶陶を生産した窯跡からは、わずかですが土製の型「土型」が出土しています。これらの土型は向付や皿といった茶懐石用の食器を同一規格で生産するためのものとみられ、土型と同様のかたちの製品も多数出土しています。



土型-六角
岐阜県立多治見工業高等学校蔵



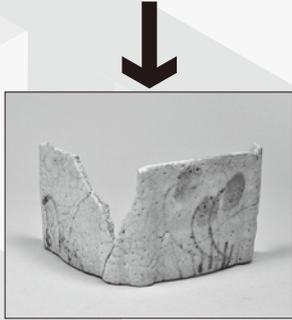
土型-四方
岐阜県立多治見工業高等学校蔵



土型-木瓜
清安寺窯出土



黄瀬戸



志野



御深井



かたちいろいろ！ 型づくりの製品

黄瀬戸や志野では四方形など単純な形状だった型づくりの製品は、織部の生産が始まると一気に多様化していきました。さらに、御深井釉陶器に至ると具象的な表現が際立ちます。

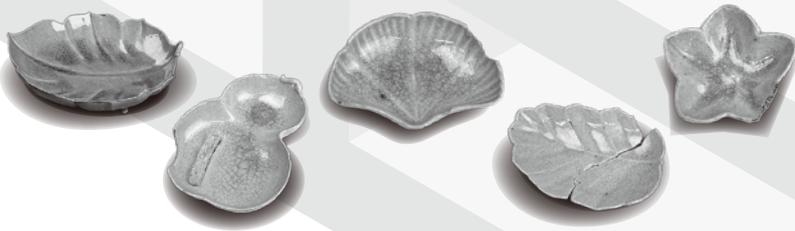
黄瀬戸
志野



織部



御深井



やきものの製造過程には、採土・製土・成形・施釉・焼成といったいくつもの工程があります。岐阜県東美濃(東濃)地域では、時代に応じたさまざまな製品づくりとともに、その生産技術も変化を遂げてきました。

成形方法に着目すると、まず、やきものの生産がはじまった飛鳥時代にはロクロを用いた成形が行われます。安土桃山時代から江戸時代初頭になると、黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部といった茶の湯の席で用いるための器美濃桃山陶を生産する中で、型を用いた製品づくりがみられるようになります。この頃の型づくりの製品は、黄瀬戸の六角杯や志野の入隅四方向付といった単純な形から、織部に至ると傘や千鳥など多様な形をかたどったものへと発展しました。織部製品に続いて生産された御深井釉陶器でも型づくりの製品は多くみられ、その後、茶陶生産が衰退すると型づくりの製品は減少していきます。型づくりの技術は、茶懐石用の食器として複数一組の同じ形の器を効率的に生産するための手法だったと同時に、使う人を視覚的に楽しませるための表現豊かな製品づくりの一役を担っていたと考えられます。

本展では、多彩な茶陶を生産した窯跡出土の製品や土型を展示し、茶陶生産における型づくりの技術をご紹介します。

土岐市美濃陶磁歴史館

〒509-5142 岐阜県土岐市泉町久尻1263番地
TEL.0572-55-1245 FAX.0572-55-1246

土岐市文化振興事業団ホームページアドレス <http://www.toki-bunka.or.jp/>

TOKI CITY
HISTORICAL MUSEUM OF MINO CERAMICS

交通のご案内

- 名古屋駅からJR中央本線「土岐市駅」下車 徒歩約10分
- 中央自動車道「土岐IC」から約7分
- 東海環状自動車道「五斗蔦スマートIC」から約5分
- 東海環状自動車道「土岐南多治見IC」から約10分

